

実施事例集

第1学年第2分野

目次

第3. 学習指導要領上の位置付け 第1学年第2分野「いろいろな生物とその共通点」	- 2 -
1 単元の指導計画と一枚ポートフォリオの例	- 2 -
2 評価の見取り方	- 7 -
3 指導と評価の一体化を図るために	- 8 -
第4. 学習指導要領上の位置付け 第1学年第2分野「大地の成り立ちと変化」	- 9 -
1 単元の指導計画及び一枚ポートフォリオの例	- 9 -
2 評価の見取り方	- 12 -
3 指導と評価の一体化を図るために	- 13 -

第3. 学習指導要領上の位置付け 第1学年第2分野「いろいろな生物とその共通点」

1 単元の指導計画と一枚ポートフォリオの例

(1) 第1章「生物の観察と分類のしかた」 (5時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	備考 [記録方法]
1	1. 身近な生物 ・単元の導入として、身近にはどんな生物がいるか考えさせ、発表することで興味をもたせる。	態		
2	2. 観察と記録の方法 ・タンポポの花をルーペを使って観察・スケッチし、正しい方法を理解する。	知(態)	○	・ルーペの使い方を正しく理解している。 ・正しい方法でスケッチしている。
3	3. 身近な生物の観察 ・校庭にて様々な生物を観察・記録し、生物カードを作成する。	知(態)	○	・生物の生息場所や特徴などを具体的に記録している。
4	4. 身近な生物の分類 ・作成した生物カードを元に、班で話し合い分類し、発表する。	思(態)		・自分たちなりの基準で生物を分類し、その共通点や相違点に気づくことができている。
5	・他の班の発表を聞いた後に、自分の考えを記述する。	(態)	○	

学ぶ前の皆さんへ：

身近にはどんな生物がいるでしょうか。また、それはどのような特徴で分類されるでしょうか。

虫、犬、猫、鳥、木、草、花など。虫は足が六本、動物は足が4本、植物は緑色で動かない。

日付	分かったことや学んだこと	もっと知りたいことや疑問点、課題点など
○/○	他の人の意見を聞いて、植物といっても様々な種類があることが分かった。また、それぞれに違った特徴があると知った。	今日の授業で知らない生物がいくつか出てきていたので、実際に見てみたいと思った。身近にいるのかな？
○/○	今まで雑草なんて気を付けて見たりしていなかった。他の班が調べた生物は、自分たちが調べたので、探すのは面白かった。種類によって生えやすい場所と生えにくい場所があると思った。	他の班が調べた生物は、自分たちが調べたものとう違うのか気になった。
○/○	生物カードを分類することで、それらの特徴を知ることができた。また、それぞれ生活する場所が違い、うまくすみわけをしているのかなと思った。	同じ場所にすんでいる生物は、逆に協力することもあるのかと気になった。植物同士や、植物と虫とか。
○/○	他の班の発表を聞き、自分たちとは違う見方で分類をしていて面白かった。植物の形については、私たちは考えていなかった。	他にどんな分類方法や特徴があるのか知りたい。

学んだ後の皆さんへ：

身近にはどんな生物がいるでしょうか。また、それはどのような特徴で分類されるでしょうか。

動物は動く生物で、虫、犬、猫、鳥、人などがいる。中でも虫はさらにわけることができる。植物にもいろいろな種類があり、日向に生えるもの、日陰に生えるもの、背の高いもの、低いものなどの特徴がある。

(2) 第2章「植物の分類」(9時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	備考 [記録方法]
1	1. 様々な植物 ・様々な植物を例示し、それについてタブレットを用いて調べ分類する。	態		
2	2. 花のつくり ・花を分解して観察し、それぞれの部位の特徴を見出し理解する。	知 (態)	○	・花のつくりについて、観察を通してそれぞれの部位と特徴を見出している。
3	3. めしべと果実のつくり ・花の観察を通し、果実がどの部分からつくられるか理解する。	(態)		
4	4. 葉や根のつくり ・ダイコンやホウレンソウ、ニラなど野菜の観察を通して、葉や根のつくりの共通点や相違点に気付く。	思 (態)	○	・平行脈・網状脈、主根と側根・ひげ根などの特徴に気付くことができている。
5	・観察の発表をし、単子葉類と双子葉類の特徴をまとめ、理解する。	(態)		
6	5. マツやイチョウのなかま ・裸子植物の種類と特徴について、被子植物との共通点や相違点に着目しながら理解する。	(態)		
7	6. 種子をつくらない植物 ・シダ植物やコケ植物の観察を通して、それらの特徴を見出す。 ・シダ植物やコケ植物のふえ方についてまとめ、理解する。	(態)		
8	7. 植物の分類 ・被子植物、裸子植物、シダ植物、コケ植物についてそれぞれの共通点や相違点をまとめ、理解する。	思 (態)	○	・コケ植物の観察において、被子植物等の葉との共通点や相違点について気付くことができている。

9	・問題演習を通して植物のなかまの単元の学習内容の理解を深める。	(態)		
---	---------------------------------	-----	--	--

学ぶ前の皆さんへ：

植物にはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるでしょうか。

ニンジンやキャベツとかの野菜、タンポポとかの雑草、サクラみたいな木。野菜は食べられる、木はかたくて大きくなる。雑草はそれ以外。

日付	分かったことや学んだこと	もっと知りたいことや疑問点、課題点など
○/○	自分なりの考えで植物を分類することができた。	
○/○	花の分解は楽しかった。うまく分解できてよかった。	
○/○	種になる部分には元があった。	実になる部分はよくわからなかった。
○/○	いつも食べている野菜をよく見るのは初めてだったのでおもしろかった。それぞれの特徴がわかった。	他の野菜もどうなるのか知りたい。キャベツってどうなってるの？
○/○	単子葉類と双子葉類の違いがわかった。	全部の野菜がこの二種類にわけられるのかな？
○/○	裸子植物の特徴がわかった。	
○/○	シダ植物とコケ植物の特徴がわかった。種子じゃないふえ方にビックリした！	もっと小さい植物っているのかな？
○/○	植物の分類がわかった。	
○/○	問題をたくさん解いた。	わからなかった問題はよく復習してわかるようにする。

学んだ後の皆さんへ：

植物にはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるでしょうか。

種子でふえる被子植物、裸子植物。被子植物は果実をつくる。胞子でふえるシダ植物、コケ植物。シダ植物は根・茎・葉の区別がある。野菜や木や雑草もそれぞれにわけられる。

(3) 第3章「動物の分類」(7時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	備考 [記録方法]
1	1. 様々な動物 ・様々な動物を例示し、調べ、分類する。	態	○	・様々な動物に興味を示し、主体的に分類しようという態度が見られる。
2	2. 脊椎動物の特徴と分類 ・脊椎動物について、生活する場所や体表、ふえ方に着目して特徴を理解する。	(態)		
3	・脊椎動物の分類を表にまとめ、それぞれの共通点や相違点も含めて理解する。	(態)		
4	3. 無脊椎動物の特徴と分類 ・アサリの解剖をし、脊椎動物との共通点や相違点に気付かせる。	思 (態)	○	・外套膜やあし、えらなどの体のつくりに着目してスケッチできている。
5	・軟体動物、節足動物、その他の無脊椎動物の分類について、それぞれの特徴や具体的な生物について理解する。	(態)		
6	4. 動物の分類 ・脊椎動物や無脊椎動物について、その分類や特徴について表でまとめ、理解する。	(態)		
7	・問題演習を通して理解を深める。 ・ポートフォリオを完成させ、本単元の学びを振り返る。	(態)		

学ぶ前の皆さんへ：

動物にはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるでしょうか。

犬、猫、虫、キリン、魚、鳥など。魚は水中にすんでいる。虫は足が6本。鳥はつばさをもつ。他は哺乳類。

日付	分かったことや学んだこと	もっと知りたいことや疑問点、課題点など
○/○	動物は思っていたよりもいろいろなものがあることに気付いた。クラゲも動物なのか…	他にどんな動物がいるのか知りたい。
○/○	脊椎動物でまとめると、魚も人間も同じなまといことがわかった。鳥は思ったよりも人間と似ている部分が多いと感じた。	クジラが哺乳類なのはなぜ？
○/○	表にしてみるとわかりやすい。ふえ方や体表にも特徴があることがわかった。哺乳類以外にもいろんな分類があった。	イカは表面がぬるぬるしていてカエルに近いけど、違うなかま？
○/○	アサリの解剖おもしろかった！これからみそ汁に入っていたら解剖する。目だと思っていたところは目じゃなかった。	他の生き物も解剖してみたい。
○/○	無脊椎動物にもいろいろいることがわかった。水族館にいてみたいと思った。イソギンチャクみたいに動かないものも動物なんだとわかった。	まだまだ知らないことが多い。
○/○	同じようなものでも違う種類だったり、違うようなものでも同じ種類だったりしていておもしろかった。	無脊椎動物は水にすんでいるものが多いのはなんでだろう。
○/○	しっかりそれぞれの分類の特徴を理解することができた。	

学んだ後の皆さんへ：

動物にはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるでしょうか。

脊椎動物と無脊椎動物に大きくわかれていて、脊椎動物には背骨があり、無脊椎動物には骨がない。脊椎動物には恒温で胎生の哺乳類、恒温で卵生の鳥類、うろこでおおわれていて肺呼吸のは虫類、子どもは水中、親は陸上で生活する両生類、水の中で生活する魚類がいる。無脊椎動物には外骨格でおおわれている節足動物、外とう膜をもつ軟体動物、それ以外の生物に分けられる。

2 評価の見取り方

(1) OPPシートの見取り

(ア) 生物の観察と分類のしかたの OPP シートについて

【授業を通して「分かったこと」「学んだこと」】

全ての授業において振り返りを行うことができていることから、毎授業において何を学んだかを整理し、粘り強く学習に取り組もうという姿勢が見られる。記述の内容については、授業で学習した新出の単語や考え方の要点を押さえ、具体的かつ詳細に書いている。よって粘り強く学習に取り組む側面は「十分満足できる」状況 (A) である。

【授業を通して「もっと知りたいことや疑問点、課題点など」】

毎授業で自分の分からなかったことやもっと知りたいこと、調べてみたいことについて具体的かつ詳細に書くことができている。例えば、生物カードを作成して特徴をまとめる授業では、「同じ場所にすんでいる生物は、逆に協力することもあるのかと気になった。」との記述が見られるが、ここから自分なりに生物の生態に興味をもち、生態系の概念につながる思考をしている。よって、学習を調整する態度は「十分満足できる」状況 (A) である。

以上より、主体的に学習に取り組む態度の観点で「十分満足できる」状況 (A) と判断できる

(イ) 植物の分類の OPP シートについて

【授業を通して「分かったこと」「学んだこと」】

全ての授業において振り返りを行うことができていることから、毎授業において何を学んだかを整理し、粘り強く学習に取り組もうという姿勢が見られる。記述の内容については、学習によって粘り強く学習に取り組む側面は「おおむね満足できる」状況 (B) である。

もっと具体的かつ詳細に書くことで、より学習内容を整理することができる。例えば被子植物の分類の授業においては、「被子植物は、葉脈の通り方・根の形・子葉がつく数で分類できる。」などと書けると良い。

【授業を通して「もっと知りたいことや疑問点、課題点など」】

授業の内容を基に、次の学習につながるような疑問点や課題点を挙げることができている。記述の具体性に関しては少し改善の余地はあるため、自己を調整する側面は「おおむね満足できる」状況 (B) である。

例えば、種子植物の分類において、「被子植物はなぜ子房に包まれる必要があるのか。」、「被子植物と裸子植物で受粉する場所がちがうのはなぜなのか。」などと書けていれば、学習の調整をしようとしていることが読み取られる。

以上より、主体的に学習に取り組む態度の観点で「おおむね満足できる」状況 (B) と判断できる。

(ウ) 動物の分類の OPP シートについて

【授業を通して「分かったこと」「学んだこと」】

全ての授業において振り返りを行うことができていることから、毎授業において何を学んだかを整理し、粘り強く学習に取り組もうという姿勢が見られる。記述の内容については、学習によって粘り強く学習に取り組む側面は「おおむね満足できる」状況（B）である。

もっと具体的かつ詳細に書くことで、より学習内容を整理することができる。例えばセキツイ動物の分類の授業においては、「ヒトと鳥では、翼などの移動手段にちがいが見られるが、体温調節をする点で似ている。」などと書けると良い。

【授業を通して「もっと知りたいことや疑問点、課題点など」】

毎授業で自分の分からなかったことやもっと知りたいこと、調べてみたいことについて具体的かつ詳細に書くことができている。例えば、無セキツイ動物の分類の授業では、「無脊椎動物は水にすんでいるものが多いのはなんでだろう。」との記述が見られるが、ここから自分なりに生物の形態に興味をもち、生物の共通性と多様性の概念につながる思考をしている。よって、学習を調整する態度は「十分満足できる」状況（A）である。

以上より、主体的に学習に取り組む態度の観点で「十分満足できる」状況（A）と判断できる

（2）評価Cの生徒に対する今後の指導の手立て

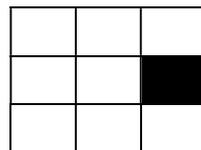
一枚ポートフォリオを書き、学習を振り返る時間を十分に確保する。また、学習プリントや板書、授業スライド等、自らが学習をまとめやすいものを参考に、授業の中でどのような力がついたのか、何を考えたのかを具体的に示し、分かりやすく表現できるよう助言する。

また、話し合いの中で出てきた議題や深まった考え方をまとめ、次の学習につなげる活動も指導していく必要がある。

3 指導と評価の一体化を図るために

主体的に学習に取り組む態度の評価は、自らの学習を調整して科学的に粘り強く探究する力を養うことから、日常の学習を細かく見取る必要がある。一枚ポートフォリオを利用して、生徒一人ひとりがどのようなことをどのようにして学んだのか記録として残るので、主体的に学習に取り組む態度を数値で評価しやすくなる。また、一枚ポートフォリオの成果が適正に評価されているか、今後の生徒の学習への取組を観察することで、教員の指導方法の改善につながる。

（中野区立南中野中学校 齋藤 吉伸）



第4. 学習指導要領上の位置付け 第1学年第2分野「大地の成り立ちと変化」

1 単元の指導計画及び一枚ポートフォリオの例

(1) 第1章「火山活動と火成岩」(4時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	重点観点の評価基準
1	・火山とはどのような山だろうか。 私たちにどのような影響をあたえているのだろうか。	思 (態)		・火山について、周囲のようすや生活などに関連付けて考えている。
2	第1節 火山の姿からわかること ・マグマの性質と火山の形のどんな関係があるのか考える。	思 (態)		・マグマの性質と火山の形のどんな関係があるのか考え表現している。
3	第2節 火山がうみ出す物 ・火山灰がどのような物できているのか調べる。 ・観察2 火山灰にふくまれる物	知 (態)	○	・火山灰にふくまれる物を観察し、スケッチすることができる。 ・双眼実態顕微鏡を正しく操作できる。
4	第3節 火山の活動と火成岩 ・火成岩の色やつくりについて調べ、ちがいがなぜ生じるか考える。 ・観察3 火成岩の観察	思 (態)	○	・花崗岩と流紋岩を観察し、違いについて説明できる。

単元4	大地の変化	
第1章	火をふく大地	
章を学習する前の考え	問 火山とはどのような山だろうか。私たちにどのような影響をあたえているのだろうか。	
自分の考え(予想)	富士山のように地下にマグマが眠っており、噴火をする山のこと。そのマグマの熱気で私達は温泉などに入ること	
日付	①授業を通して「わかったこと」「わからなかったこと」	②授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」
第1時	【用語】 マグマ 岩石(プレートやマントル)が溶けたもの(約1,000度) マグマだまり 地中のマグマが溜まっている場所 噴火 地表にマグマが噴き出す 火山 マグマが地表に吹き出してできた山 溶岩 マグマが地表に流れ出てきた	地球も大きな岩石できていることが分かった。 また、地上にマグマが出ると、溶岩という名前になるということも分かった。(今まで別のものだと思ってた)
第2時	マグマの粘り気が強いと、白っぽい色の溶岩が完成することがわかった。	日常の中で石の色など気にしたことがなかったので、公園などに行ったときに石の色、形などに注目して、石を見たいと思った。
第3時	【火成岩】 マグマが冷えて固まった火山岩、深成岩 実際に火山噴出物を触った	実際に火山噴出物を触ったことで凹凸や形などが実感できた。 特に、軽石が気に入った。軽石は白っぽい色をしているので二酸化ケイ素が多い溶岩からできたことがわかる。では、 なぜ軽いのが気になる
第4時	斑状組織 火山岩のつくり 石基 小さな鉱物の集まり	今回も実際に火山噴出物を触った。また、深成岩などは斑晶が大きくきれいなためホテルの床などに使われることもあるということがわかった。

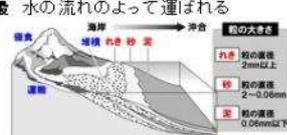
(2) 第2章「地震の伝わり方と地球内部の働きについて」(5時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	重点観点の評価基準
1	第1節 地震のゆれの伝わり方 ・震源で発生したゆれが、どのようにして伝わるか調べる。 ・実習1 地震の波の伝わり方	知(態)		・地震の波の伝わり方について観察し、伝わり方の違いを説明できる。
2	・地震の揺れの尺度である震度とマグニチュードについて学ぶ。 ・地震の分布図とプレートの境界図から、地震の起きそうな地点の特徴を考える。	思(態)	○	・地震分布図とプレートの境界地図をもとに、地震が起きる地点とプレートとの関係を見出し、推論している。
3	第2節 地震が起こるところ ・地震は、どのようなところでどのようにして起こるか考える。	知(態)		・プレートのでき方やプレートの移動、地震の起きる仕組みについて理解している。
4	・日本周辺の海溝や海嶺、プレートの移動方向について調べ、日本付近で地震が起きそうな地点について考える。	思(態)		・海溝や海嶺の位置、プレートの移動方向から、日本付近で地震が起きそうな地点について推論している。
5	第3節 地震に備えるために ・地震によって起こる被害を最小限におさえるためにはどのようなことが必要か考える。	思(態)	○	・地震によって起こる被害を最小限におさえるためにはどのようなことが必要か考え、記述することができる。

単元4 大地の変化	
第2章 動き続ける大地	
章を学習する前の考え 問 地震はなぜ起こるのだろうか。私たちにどのような影響をあたえているのだろうか。	
自分の考え(予想) 地層奥深くのプレートがぶつかってずれると地震が起こる。地震が大きいと建物が崩れたり、地割れしたり私達に悪影響な被害を及ぼす。	
日付	①授業を通して「わかったこと」「わからなかったこと」
第1時	②授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」
第1時	地震が起こった場所を震源、震源の真上の地上を震央、震源と震央の距離を震源の深さという。最初にくる弱い縦揺れを初期微動といい、あとからくる大きい横揺れを主要動といい、初期微動の時間を初期微動継続時間という。 縦波と横波で揺れ方が異なることがわかった。縦波の方が伝わるのが早く揺れは小さい。横波の方が伝わるのが遅く、揺れが大きい。
第2時	震度は地震の揺れの強さを表す数値でマグニチュードは地震の規模を表している→1Mごとに32倍 地震は地球の中にあるマグマによって動かされるプレート同士がぶつかってずれたり割れたりした衝撃で起こるもの
第3時	カラーテスト14をした。 地震が起きる仕組みは海底火山でプレートが作られ、プレートが年に4センチ移動しプレートとプレートがぶつかることで起きる
第4時	プレートとプレートがぶつかる部分が溝になっている場所を海溝という。海底火山が連なる部分を海嶺という。地面プレートがずれた部分を断層といい、今でも地震が起きる可能性がある断層を活断層という。
第5時	隆起は地震で地面が浮き上がること、沈降は地面が沈むこと。津波は地震で海水が大きく盛り上がりできる波のこと。震災は地震による災害のこと。地震口は種類があり、内陸型地震と海溝型地震がある。震源が内陸か海溝かの違い。
第6時	テスト直しをした。

(3) 第3章「地層の重なりと過去の様子」(6時間)

時間	指導のねらい・学習活動	重点	記録	備考 [記録方法]
1	第1節 地層のつくりとはたらき ・れき、砂、泥がどのようにして地層をつくるか考える。	思(態)	○	・地層のでき方について考え予想することができる。
2	第2節 堆積岩 ・それぞれの堆積岩にどのような特徴があるか調べる。 ・観察4 堆積岩の見分け方	知(態)		・堆積岩を観察し、それぞれの特徴をスケッチすることができる。
3	第3節 地層や化石からわかること ・地層や化石から、どのようなことがわかるか考える。	思(態)	○	・示準化石、示相化石を提示し、そこからわかることを考え説明することができる。
4	第4節 大地の変動 ・海底でできた地層が見られる山脈や山地は、どのような力で作られるか考える。	知(態)	○	・プレートの動きについて映像資料をみて、海嶺や海溝ができる仕組みについて理解している。
5	第5節 身近な大地の歴史 ・地層から大地の歴史を知るには、何を調べてまとめればよいか考える。	思(態)		・ボーリング資料から、地層の広がり方を推測することができる。
6	学習内容の整理・確かめと応用	態		・毎回の授業で自らの学習を振り返っている。授業の内容を踏まえ新たな疑問や課題を設定している。

単元4 大地の変化	
第3章 地層から読みとる大地の変化	
章を学習する前の考え 問 地層からどのようなことがわかるだろうか。	
自分の考え(予想) 地層の一番下が古いなど、地層から砂の積み方などが読み取れる	
日付	①授業を通して「わかったこと」「わからなかったこと」 ②授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」
第1時	<p>風化 気温の変化などによって、削られ、ボロボロになる 侵食 水によって削られる 運搬 水の流れることによって運ばれる</p> 
第2時	<p>堆積岩 堆積物が固まってできた岩石 れき岩 粒の大きさが2mm以上 砂岩 粒の大きさが2-0.06mm以上 泥岩 粒の大きさが0.06mm以下 凝灰岩 火山灰が固まったもの 石灰岩 サンゴやフズリナ(貝殻)の死骸が蓄積して固まったもの チャート 放射物の死骸が固まったもの</p>
第3時	<p>示準化石 当時の環境を知ることができる化石 示準化石 時代(年代)を知ることができる化石 地質時代 地層が蓄積した時代 化石 生物や果実などが固まったもの</p>

2 評価の見取り方

(1) OPPシートの見取り

(ア) 火山活動と火成岩のOPPシート例について

【授業を通して「分かったこと」「わからなかったこと」】

授業で学習した用語、その説明が書かれている。よって粘り強く学習に取り組む側面は、「おおむね満足できる」状況（B）である。

【授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」】

「公園などに行ったときに石の色、形などに注目して、石を見たい」「ホテルの床の模様などに注目したい」という記述があることから、新しい見方考え方をはたらかせていると考えられる。自己を調整する側面は、「十分満足できる」状況（A）である。

以上より、「3×3ルーブリック」において、黒色の位置であると判断し、主体的に学習に取り組む態度の評価を「十分満足できる」状況（A）、または「おおむね満足できる」状況（B）とした。（A）か（B）かは、学校の実態、学校で定めた目標に合わせて判断するのがよい。

	■	

(イ) 地震の伝わり方と地球内部の働きについてのOPPシート例について

【授業を通して「分かったこと」「わからなかったこと」】

毎回の授業で学習した内容を自分の言葉で表現している。よって粘り強く学習に取り組む側面は、「十分満足できる」状況（A）である。

【授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」】

授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」については十分書かれていない。よって、自己を調整する側面は、「努力を要する」状況（C）である。

以上より、「3×3ルーブリック」において、黒色の位置であると判断し、主体的に学習に取り組む態度の評価を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

		■

(ウ) 地層の重なりと過去の様子のOPPシート例について

【授業を通して「分かったこと」「わからなかったこと」】

授業で学習した用語、その説明が書かれていることから、粘り強く学習に取り組む側面は、「おおむね満足できる」状況（B）である。

【授業を通して「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」】

次の授業につながるような発展的な記述ではないが、授業を通して感じた疑問点や考えを書くことはできている。そのことより、自己を調整する側面は、「おおむね満足できる」状況（B）である。

以上より、「3×3ルーブリック」において、黒色の位置であると判断し、主体的に学習に取り組む態度の評価を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

	■	

(2) 評価Cの生徒に対する今後の指導の手立て

授業時間内にOPPシートに取り組みさせる時間を設定する。その際、本時のめあてや課題に着目させながら授業一時間を振り返らせる。また、教科書に書いてある表現を使わせたり、重要用語を記入させたり、モールステップで取り組ませていく。

3 指導と評価の一体化を図るために

この単元は、火山と火成岩、地震の伝わり方と地球内部の働き、地層の重なりと過去の様子からなる。それぞれ、私たちが暮らす地球についての学習であり、日本は火山も多く、地震も多いため、身近に感じることのできる単元である。しかし、実際に火山を見学に行ったり、地震を体験するといった活動は計画的に行うことはできず、生徒の今までの生活体験に頼らざるをえない。そのため、動画資料や、webマップの活用は効果的だが、座学が多くなりがちな単元である。そこで、ルーブリックで達成目標を明確に示し、OPPシートを活用することで、生徒自身が主体的に自然現象について考える場面を設定していくことが大切だと考える。教科書にある課題や発問を利用することで、教員も負担少なく生徒に考えさせる活動を取り入れることができる。1人1台タブレットを所有しているため、課題についてインターネットで検索させることで、多くの資料を集めることができる。こうした活動を繰り返していくことで生徒が主体的に取り組み、科学的な資質・能力を育成していくことができる。

(大田区立大森東中学校 高崎 紀昭)

